

車載型デジタル簡易無線機 IC-DV6505



この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰
されます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国内業務用車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

- ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★1}の性能に対応できるように設計されています。
- ◎付属のコマンドマイク(HM-206)についても、IP54の性能があります。
- ◎デジタル、アナログの両機能を搭載しています(設定はお買い上げの販売店にご依頼ください)。
- ◎チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎チャンネル番号の代わりとして、漢字、英数字、記号、外字^{★2}を使用して表示できます。^{★3}
- ◎デジタルモードでは、秘話機能^{★3}を設定することで、他局に通話内容を傍受されるのを防止できます。
- ◎個別呼び出し機能^{★3}や緊急呼び出し機能^{★3}に対応しています。
- ◎付属コマンドマイクのGPS機能^{★2}を設定することで、自局の位置情報を受信(測位)して、送信できます。
- ◎録音/再生機能^{★3}により、送信したときの通話、および自局宛ての通話を録音、および再生できます。
- ◎弊社製デジタル簡易無線機(IC-DV75、IC-DV5505C)とも通話できます。
- ◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3A」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★4}

- ★1 「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。
- ★2 HM-206(コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。
- ★3 お買い上げの販売店で設定が必要な機能です。
- ★4 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

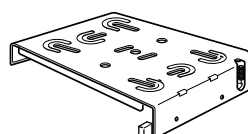
取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

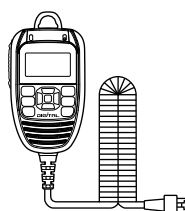
本書では、デジタルモードでの使いかたを例に記載しています。

アナログモードでお使いの場合も、使いかたは同じです。一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品について



車載ブラケット



コマンドマイク
(HM-206)

取り付けネジ一式
(取り付けブラケット用)



圧着端子
(バッテリー接続用)



DC電源ケーブル



予備ヒューズ
(125V/5A)



マイクハンガー
(取り付けネジ一式を含む)

- ☐ 簡易取扱説明書
- ☐ ご注意と保守について
- ☐ 保証書

登録商標/著作権について

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期限は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

取り扱い上のご注意

- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター回路内蔵のおもな電子機器】

- ◎ LED照明器具 ◎ 電磁調理器 ◎ 給湯器
- ◎ 自動車に搭載された電子機器 ◎ 太陽光発電装置

防塵/防水性能について

マイクロホンが無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能になります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎コマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(HM-204)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20～+60℃以外の環境で使用したとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水スピーカーマイク(HM-204)、コマンドマイク(HM-206)が無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能になります。

※上記以外の別売品(7章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を規定しない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

はじめに

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

車両に取り付けるときのご注意

- ◎自動車の板金部に沿ってDC電源ケーブルを通す場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。
DC電源ケーブルと板金部がこすれると、外被が破れ、ショートの原因となることがあります。
- ◎本製品を自動車に取り付けたあと、本製品の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎アンテナの同軸ケーブルからも微小ですが電波がふく射されるので、自動車のコンピューター(コントロールユニット)、およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係：燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係
 - ：電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - その他
 - ：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサーなど
- ◎本製品を操作中、自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼしていることがわかった時点で、本製品の電源を切り、DC電源ケーブルを本製品から抜いてください。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

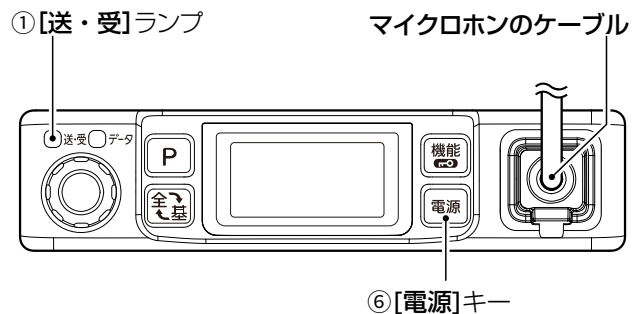
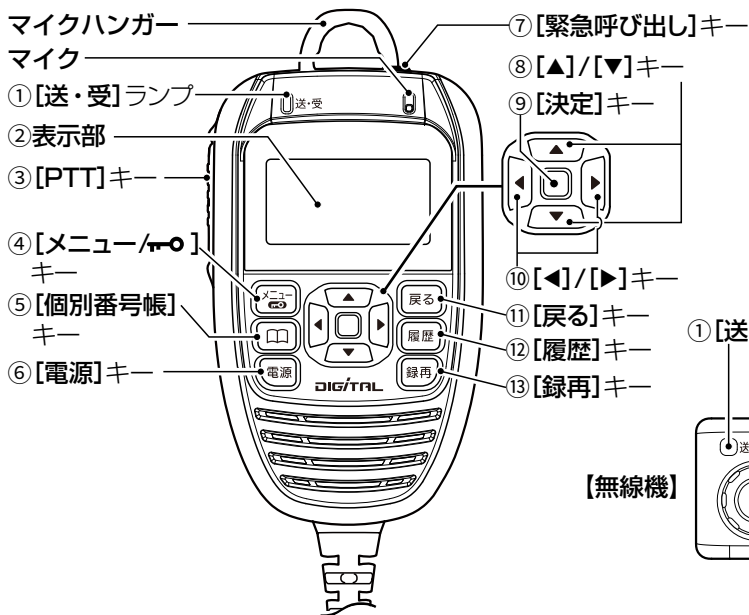
音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社が開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,359,197, #7,970,606.

はじめに	i	6.各種機能の設定	6-1
本製品の概要について	i	■ 設定一覧	6-1
登録商標/著作権について	i	■ 設定モードに移行するには	6-1
取扱説明書の内容について	i	■ 設定のしかた	6-1
付属品について	i	■ 設定項目について	6-2
電波法上のご注意	ii	7.別売品とその使いかた	7-1
取り扱い上のご注意	ii	■ 別売品についてのご注意	7-1
電磁ノイズについて	ii	■ ホームページに掲載	7-1
防塵/防水性能について	ii	■ 別売品一覧表	7-1
別売品の使用による防塵/防水性能について	ii	■ HM-204（防水スピーカーマイク）	7-1
IP表記について	ii	■ AM-5（アーム型マイクロホン）	7-2
自動車運転時のご注意	iii	■ SM-28（デスクトップマイクロホン）	7-2
車両に取り付けるときのご注意	iii	8.保守について	8-1
放熱について	iii	■ 日常の保守と点検について	8-1
音声圧縮(符号化)方式について	iii	■ ヒューズの交換について	8-1
1.各部の名称と機能	1-1	■ 従来製品との相互使用について	8-1
■ 前面部	1-1	■ 故障かな?と思ったら	8-2
■ 表示部	1-3	■ アフターサービスについて	8-3
■ 後面部	1-5		
2.通話のしかた	2-1		
■ 通話するときのアドバイス	2-2		
■ デジタルモードとアナログモード	2-2		
3.簡単なグループ通話のしかた	3-1		
■ ユーザーコードを変更するには	3-2		
4.個別呼び出し機能による通話	4-1		
■ デジタルモード	4-1		
■ アナログモード	4-2		
■ 個別呼び出し機能で通話するには	4-3		
5.その他の機能について	5-1		
■ ロック機能	5-1		
■ モニター機能	5-1		
■ ポケットビープ機能	5-1		
■ 受信専用機能	5-2		
■ 呼び出しメロディー機能	5-2		
■ 着信表示	5-2		
■ 秘話機能(デジタルモードのみ)	5-2		
■ ショートメッセージ機能(デジタルモードのみ)	5-3		
■ 拡声器機能	5-6		
■ 発着信履歴機能	5-7		
■ メモリーチャンネルスキャン機能 (デジタルモードのみ)	5-9		
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	5-10		
■ 録音/再生機能	5-12		
■ GPS機能	5-14		
■ ノイズキャンセル機能	5-15		
■ 送信出力の切り替え機能	5-15		

■ 前面部



★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

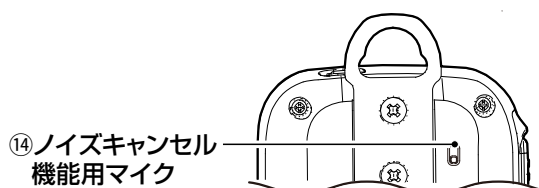
①	[送・受]ランプ 緑色に点灯: 受信中 赤色に点灯: 送信中 橙色に点滅: 着信時★
②	表示部 (P.1-3、P.1-4)
③	[PTT] (送信) スイッチ 押すと送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。
④	[メニュー/電源]キー ◎短く押すと、メニュー画面を表示します。★ ◎長く押すごとに、ロック機能 (P.5-1) を「ON」/「OFF」します。
⑤	[個別番号帳]キー★ 個別呼び出し機能が設定されている場合、押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。(P.4-1、P.4-2) 個別番号、またはグループ番号の選択は、[▲]/[▼]キーで選択します。
⑥	[電源]キー 電源を「入」/「切」します。
⑦	[緊急呼び出し]キー★ 緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。 (P.5-11)
⑧	[▲]/[▼]キー 通話チャンネル番号、個別番号★、グループ番号★、発信履歴★、着信履歴★、録音履歴★、ショートメッセージ★などを選択します。

⑨	[決定]キー 短く押すと、選択した内容を確定します。
⑩	[◀]/[▶]キー ◎押すと、音量が変わります。 ◎メニュー画面★などで、1つ下の階層に進むときは[▶]キー、1つ上の階層に戻るときは[◀]キーを押します。
⑪	[戻る]キー ◎メニュー画面★、着信/発信/録音履歴を表示する画面などで、短く押すと、1つ上の階層に戻ります。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。
⑫	[履歴]キー★ 短く押すごとに、着信/発信/録音履歴を表示する画面に切り替わります。 ◎ショートメッセージを発信、または受信した場合は、[▲]/[▼]キーで発信、または着信履歴を選択して、[▶]を押すと内容を確認できます。 ◎録音/再生機能が設定されている場合は、[▲]/[▼]キーで録音履歴を選択して、[▶]を押すと内容を再生します。
⑬	[録再]キー★ ◎短く押すごとに、発信音声、および着信音声の録音、一時停止と再開が切り替わります。 ◎長く押すと、最新の録音内容が再生されます。

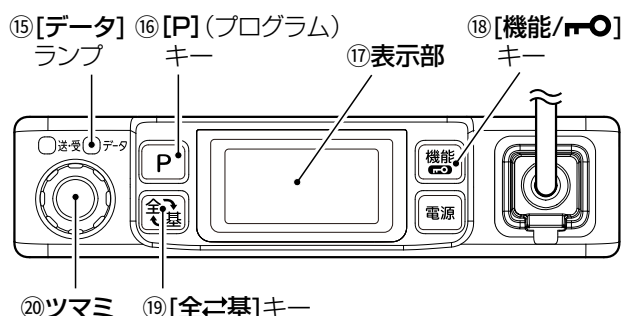
1 各部の名称と機能

■ 前面部

【マイク後面部】



【無線機】



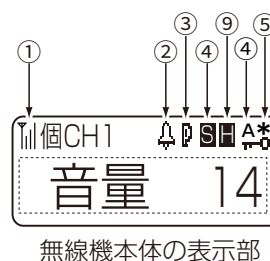
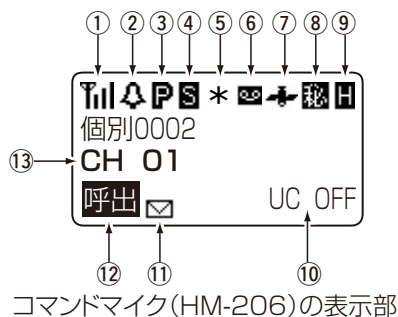
★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

⑭	ノイズキャンセル機能用マイク★ ノイズキャンセル機能が設定されているとき、このマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクロホンから入った周囲のノイズを打ち消すことで、送信音声に含まれるノイズ(特に高音域)を軽減するために使用します。
⑮	【データ】ランプ★ 橙色に点灯:データ通信で送信、または受信中
⑯	【P】(プログラム)キー★ 押しているあいだは、モニター機能が動作します。 ※モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くとときに使用します。 ※モニター機能は、ロック機能(P.5-1)動作中でも使用できます。 ※別売品のマイクロホン(HM-204、AM-5、SM-28)を接続している場合は、短く押すと、通話チャンネル表示に切り替わります。 ※【P】(プログラム)キーの動作をモニター以外の機能に割り当てる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
⑰	表示部(P.1-3、P.1-4) 付属のコマンドマイク(HM-206)の操作に関わらず、無線機本体の表示部には、常に、音量レベル、通話チャンネルを表示します。

⑱	【機能/ON-OFF】キー 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、下記の操作はできません。 ◎短く押してから、ツマミを回すと、通話チャンネルを変更できます。 ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。
⑲	【全基】キー★ 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、下記の操作はできません。 ◎押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。 ※ツマミを回すと、個別番号、またはグループ番号を選択できます。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。
⑳	ツマミ(回す) 音量が変わります。 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、下記の操作はできません。 【全基】キー、【機能/ON-OFF】キー を短く押してから回すと、チャンネル番号、個別番号、グループ番号を選択できます。

1 各部の名称と機能

■ 表示部



★1 印の表示は、コマンドマイクと無線機本体の表示部に表示されます。

★2 印の表示は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

①	 ★1	受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱 中 強 ※「  」は、電源が入っているときは常に表示されています。
②	 ★1★2	ポケットビープ機能(P.5-1)が設定されているとき表示します。呼び出しを受けると、点滅します。
③	 ★1	Pベル機能(P.6-2)が設定されているときに表示します。
④	 ★1★2	デジタルモードでメモリーチャンネルスキャン機能が動作中に点滅します。
	 ★1	アナログモードの通話チャンネルを選択時に表示します。
⑤	 ★1★2	コンパング機能が設定されているとき表示します(アナログモードのみ)。
⑥	 ★2	再生できる音声、コマンドマイクに録音されているときに表示します。
	 ★2	発信音声、および着信音声の録音中に点滅します。
	 ★2	発信音声、および着信音声の録音を一時停止させたときに表示します。
⑦	 ★2	コマンドマイクに内蔵されたGPSレシーバーの受信状態を表示します。 消灯:GPS機能(P.5-14)を使用していないとき 点滅:自局の位置情報を受信(測位)中 表示:自局の位置情報の測位が完了
⑧	 ★2	秘話機能(P.5-2)が設定されているときに表示します。(デジタルモードのみ) ※無線機本体の表示部には、「CH」で表示(例:CH 1)されます。

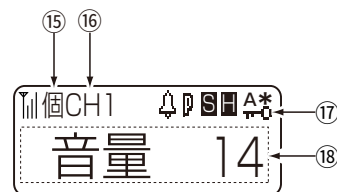
⑨	 ★1	各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。5Wのときに表示します。
	 ★1	1Wのときに表示します。
	 ★1	送信禁止チャンネルを選択したときに表示します。
	⑩ UC OFF	各通話チャンネルのユーザーコード設定を表示します。 OFF(000):ユーザーコードなし 001~511:ユーザーコードあり
⑪	 ★2	ショートメッセージを送信、または受信したときに表示します。(P.5-3)
⑫	 ★2	個別呼び出し機能(P.4-1、P.4-2)で通話中に表示します。また、全体/グループ呼び出しで送信や着信したときにも表示します。
	 ★2	個別/基地局呼び出しで送信したときに表示します。
	 ★2	ショートメッセージを受信したときや自局宛ての個別呼び出しを受けたときに表示します。
⑬	CH (例:CH 01)	待ち受け状態のとき、通話チャンネル番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称を表示します。

1 各部の名称と機能

■ 表示部



コマンドマイク(HM-206)の表示部



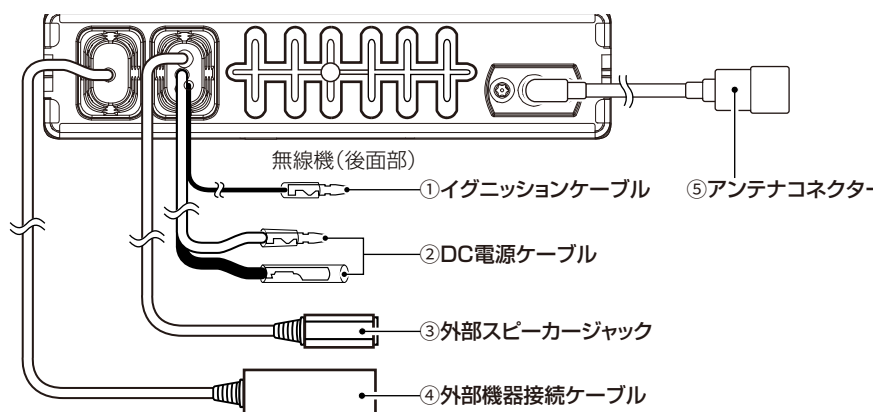
無線機本体の表示部

⑭	個別 ★2 (例:個別 0002)	個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態(全体/基地/個別/グループ)と、選択した個別番号、基地局番号、グループ番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、個別番号、基地局番号、グループ番号の代わりに設定された名称を表示します。
⑮	個 ★2	付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、表示されません。 個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態を表示します。 個: 個別 全: 全体 基: 基地 グ: グループ ※メンバー指定されたグループ番号表示のときは、「 × 」で表示されます。

⑯	CH (例:CH 1)	待ち受け中は、現在のチャンネル番号を表示します。 ※秘話機能が設定されているときは、「 CH 」で表示(例: CH1)されます。 ※付属のコマンドマイク(HM-206)の表示部には、「 秘 」で表示されます。 ※秘話機能(P.5-2)は、お買い上げの販売店で設定が必要です。
⑰	🔑	ロック機能が動作しているときに、表示します。(P.5-1)
⑱	音量 14 (例:14)	付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、音量レベル(0～32)を表示します。 ※付属のコマンドマイクが接続されていないときは、通話チャンネル番号、個別呼び出しの選択状態(全体/基地/個別/グループ)と、選択した個別番号、基地局番号、グループ番号を表示します。

1 各部の名称と機能

■ 後面部



①イグニッションケーブル(青色)

自動車のイグニッションキー(パワースイッチ)の操作と連動して、本製品の電源を「入」/「切」できるようなときは、イグニッションキーをACC(アクセサリ)、またはIGN(イグニッション)の位置にすると、12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになる電源(イグニッションまたはACC)ラインに接続します。

※イグニッションキーの操作と連動させないときは、接続の必要はありません。

ほかの機器の端子などに接触しないように、イグニッションケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

②DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。

※卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続することもできます。(P.7-1)

【過電圧/減電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「減電圧」、高い場合は「過電圧」と表示され、「ピー、ピー、ピー」と鳴ります。動作範囲の電圧に戻ると、通常表示に戻り、操作できます。

「過電圧」表示が消えても、過電圧が原因で故障している場合がありますので、無線機の点検が必要です。

※DC電源電圧が低い場合、電源が切れることがあります。

③外部スピーカージャック(φ3.5mm/4Ω/モノラル)

外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35、SP-35L)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)のスピーカーと接続します。

※別売品のマイクロホン(AM-5、SM-28)を使用するときは、上記の外部スピーカーを接続してください。

④外部機器接続ケーブル

将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)にも使用します。

※データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、設定する必要があります。

⑤アンテナコネクタ(50Ω)

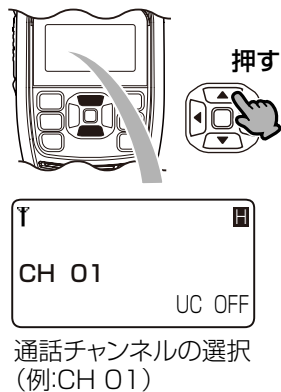
アンテナと接続します。

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

【▲】/【▼】を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

※アナログモードの通話チャンネルを選択したときは、表示部に「A」が点灯します。



ご参考: チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、設定の変更をお買い上げの販売店にご依頼ください。

2 呼び出しをする(送信する)

ご注意

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)があります。

ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。

※ 呼び出しをするときは、【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。



【PTT】を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

● 【PTT】を押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



3 呼び出しを受ける(受信する)

【PTT】をはなすと待ち受け状態になります。

電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態を表示します。

待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。



※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、【送・受】ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

【応答するときは】

【送・受】ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、【PTT】を押します。

2 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

1. マイクロホンの使いかた

◎ マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

◎ [PTT]を押すと、「ピッ」と鳴ります。

そのあとマイクロホンに向かって話してください。

※個別呼び出し機能(P.4-1、P.4-2)が「ON」のときは、「ピピッ」と鳴ります。

2. 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。

用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】	【応答をするとき】
「相手局の呼び出し名称」	3回以下
「こちらは」	1回
「自局の呼び出し名称」	1回
「どうぞ」	1回

3. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

※通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

■ デジタルモードとアナログモード

本製品はデジタルモードとアナログモードがあります。

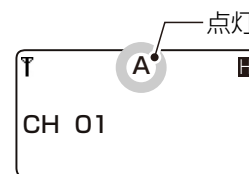
◎ デジタルモード

クリアな音質で通信できるモードです。

◎ アナログモード

従来のシステムと併用する場合に有効なモードです。

アナログモード選択時は、表示部に「A」が点灯します。

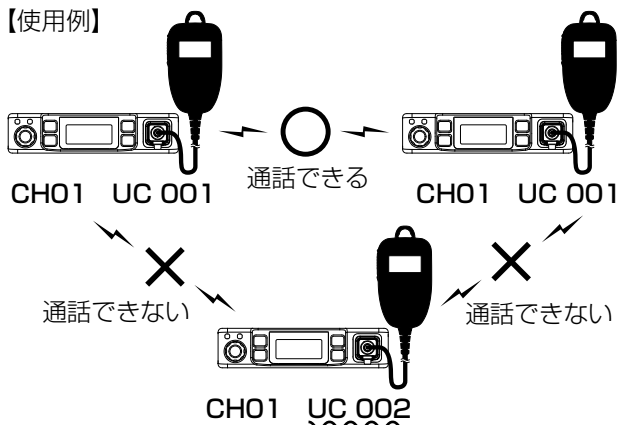


◎ 用途に合わせてデジタルモード専用、アナログモード専用、デジタル/アナログ兼用モードに設定できます。設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

3 簡単なグループ通話のしかた

デジタルモードでは、複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(P.2-1)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。

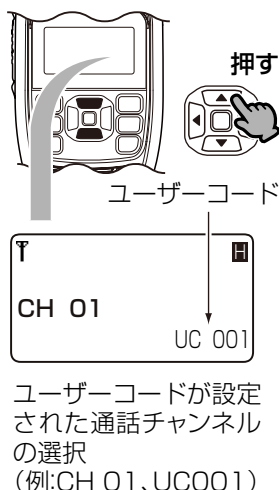
【ユーザーコードの設定について】

- ◎使用するユーザーコード(000～511)は、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。
グループ通話をするときは、選択した通話チャンネルに設定されたユーザーコードが通話相手と同じユーザーコードであることを確認してください。
- ◎コマンドマイクを使用して、ユーザーコードが変更できるように設定されている場合の操作については、本書(P.3-2)をご覧ください。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



2 呼び出しをする(送信する)

ご注意

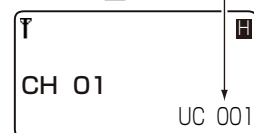
[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)があります。
ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。



[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。

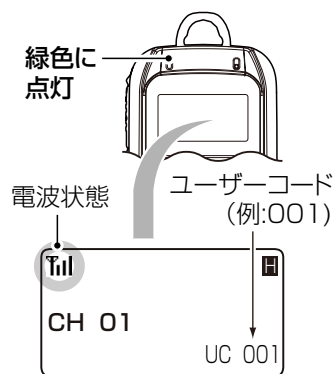


送信中の表示(例:CH01)

3 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。
電波を受信中は、[送・受]ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態を表示します。

待ち受け状態のときは、[送・受]ランプが消灯しています。



受信中の表示(例:CH01)

※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)の電波を受信しているときも、[送・受]ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

【応答するときは】

[送・受]ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、[PTT]を押します。

3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを変更するには

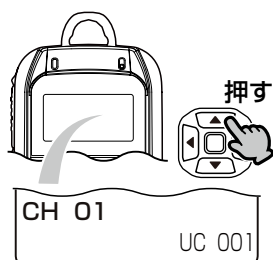
ユーザーコードを変更する手順を説明します。

※お買い上げの販売店で、あらかじめ、ユーザーコードの変更ができるように設定されている必要があります。

【変更のしかた】(例:ユーザーコードを002に変更)

① **【▲】/【▼】**を押して、通話チャンネルを選択します。

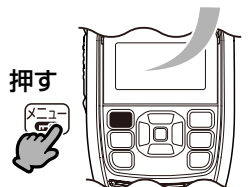
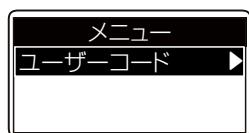
※通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを設定できるように設定されている場合、ここで選択した通話チャンネルで使用するユーザーコードだけが変更できます。



通話チャンネルの選択
(例:CH 01)

② **【メニュー/Ⓜ○】**を短く押します。

●「メニュー」画面が表示されます。



③ **【決定】**を押します。

●ユーザーコードの設定状態が表示されます。



◎通話チャンネルごとに異なるユーザーコードが設定できるように設定されているとき

◎通話チャンネル共通のユーザーコードが設定できるように設定されているとき

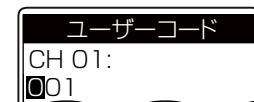
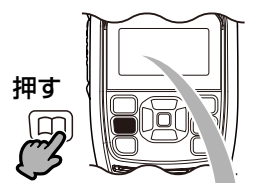
通話チャンネルごとに変更できる場合の表示



通話チャンネル共通で変更できる場合の表示

④ **【個別番号帳】**を押します。

●ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



編集中的の表示

⑤ **【▶】**を2回押します。

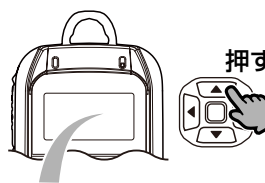
●編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。



カーソルが末尾に移動

⑥ **【▲】**を押します。

●ユーザーコードが変わります。



002に変更した状態
(次ページにつづく)

ご参考

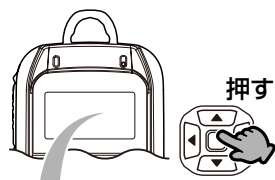
通話チャンネル共通のユーザーコード設定への変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを変更するには
【変更のしかた】(例:ユーザーコードを002に変更)

【決定】を押します。

- ユーザーコードの変更が確定されます。



ユーザーコード
CH 01 002

ユーザーコード
グループ 002

変更が確定された
ときの表示(例:002)

⑧【戻る】を2回押します。

- 通話チャンネル表示に戻ります。

↑
CH 01 UC 002



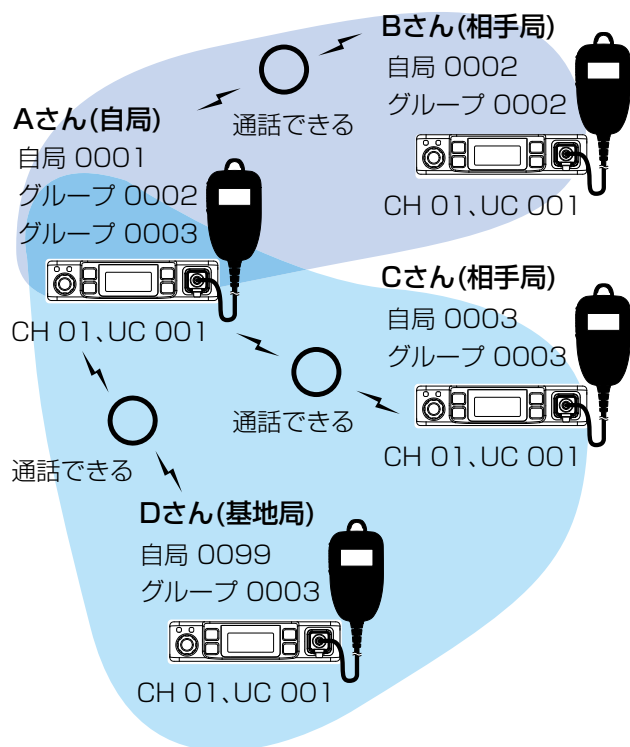
4 個別呼び出し機能による通話

■ デジタルモード

個別呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の   は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

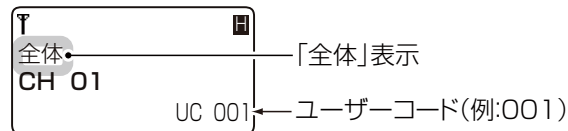


※ 個別呼び出し機能を使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

※ グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、目的のグループ番号にメンバー指定の設定が必要です。
相手側でメンバー指定されていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

呼び出しには、次の4種類の方法があります。

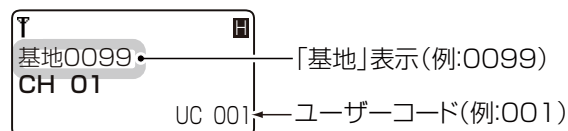
◎全体呼び出し



全体呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

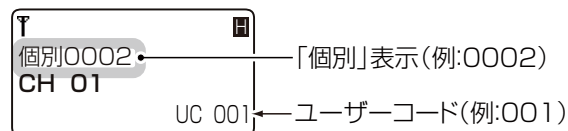
◎基地局呼び出し



基地呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:0099)を指定して呼び出します。

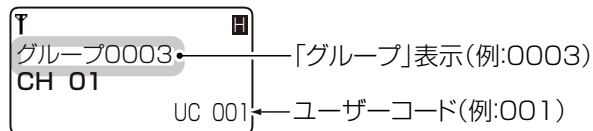
◎個別呼び出し



個別呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



グループ呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、メンバー指定★されたグループ番号(例:グループ 0003)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

★同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している受信局だけが、送信局からの音声聞けます。

メンバー指定の変更は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

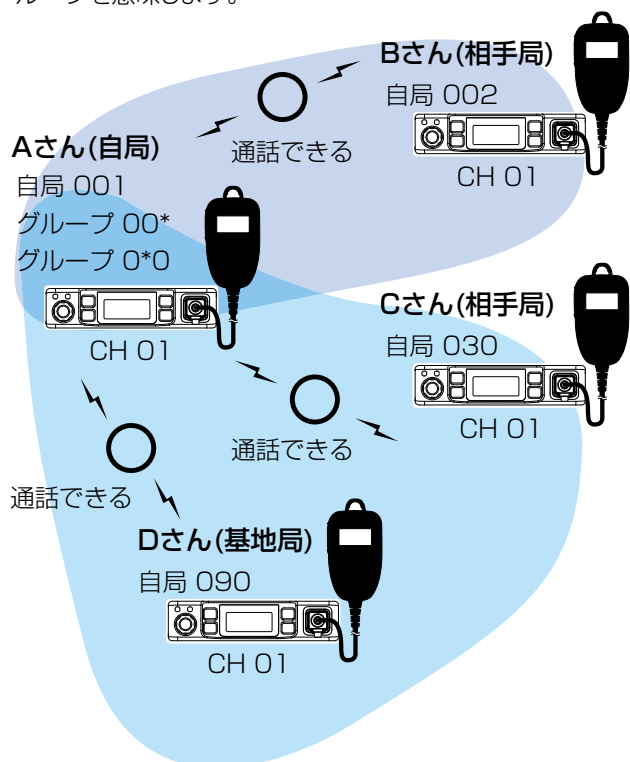
4 個別呼び出し機能による通話

■ アナログモード

個別呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の   は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



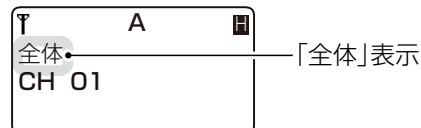
※ 個別呼び出し機能を使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

※ グループ番号の「*(アスタリスク)」の部分は、0～9のすべての番号が対象となります。

「00*」の場合、*部分が0～9の10局が対象になります。

呼び出しには、次の4種類の方法があります。

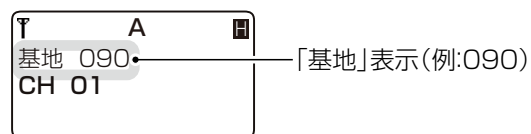
◎ 全体呼び出し



全体呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)が同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

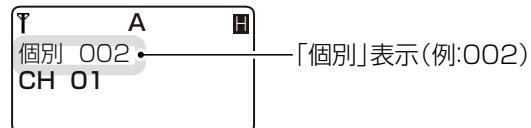
◎ 基地局呼び出し



基地呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)が同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:090)を指定して呼び出します。

◎ 個別呼び出し



個別呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)が同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:002)を指定して呼び出します。

◎ グループ呼び出し



グループ呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)が同じで、自局番号が000～009(例:グループ 002)に所属するすべての相手(例:Bさん)を呼び出します。

4 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

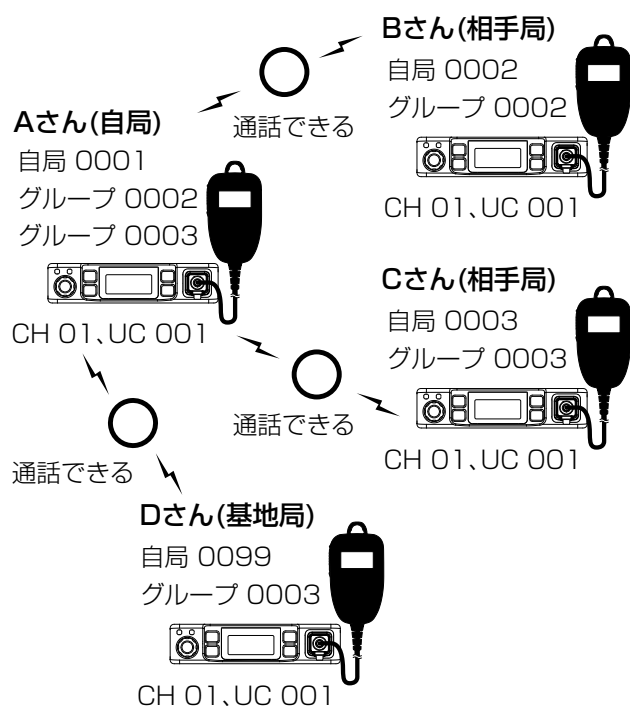
個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されているものとして説明します。

※ユーザーコードは、デジタルモードで使用できます。

【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択してから送信します。



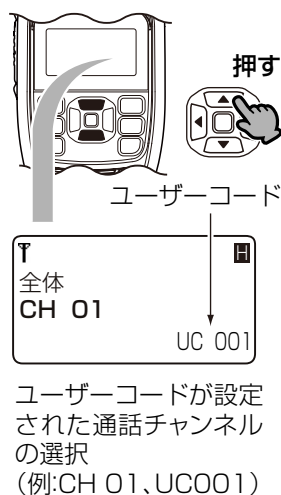
1～4の手順で操作します。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

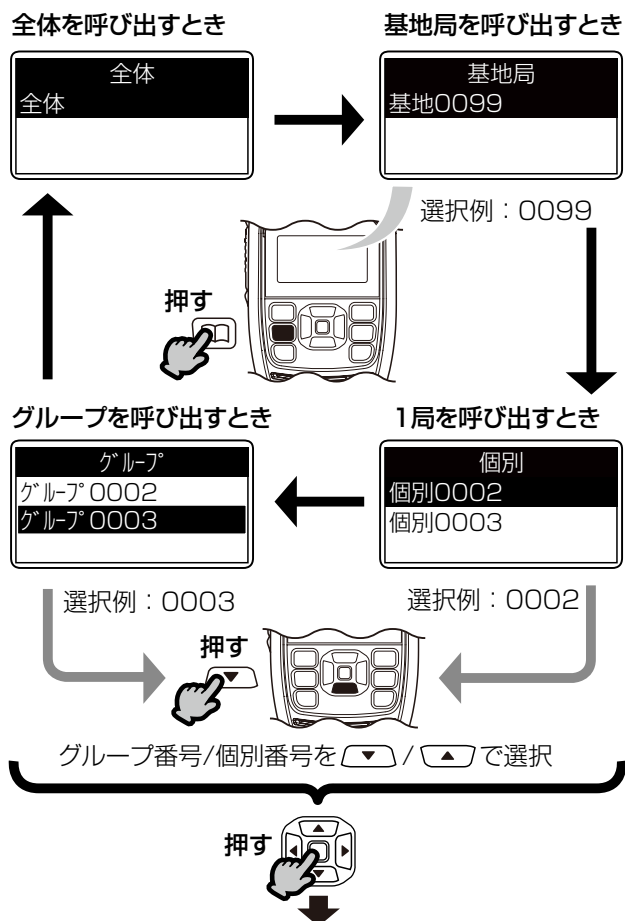
(表示例: 全体呼び出し)

※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

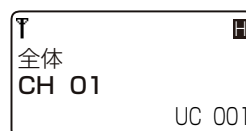
①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



②選択されていることを確認します。

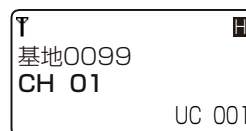
◎全体を選択した場合

「全体」表示 (例: CH 01)



◎基地局を選択した場合

「基地局」表示
(例: 基地0099)



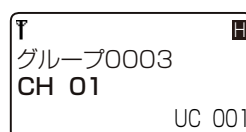
◎1局(個別)を選択した場合

「個別」表示
(例: 個別0002)



◎グループ番号を選択した場合

「グループ番号」表示
(例: グループ0003)



4 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

3 呼び出しをする(送信する)

ご注意

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードや個別番号が異なる誰かが通話中)があります。ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、**[送・受]**ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**を押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。



全体
通話

全体呼び出しで送信

基地0099
呼出

基地局呼び出しで送信

個別0002
呼出

個別呼び出しで送信

グループ0003
通話

グループ呼び出しで送信

【相手局が通話圏内かどうかを確認するには】

基地局、または個別番号を選択したあと、**[PTT]**を短く押します。

- 通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、**[送・受]**ランプが緑色に1回点滅します。通話圏外など、相手に電波が届かない状態が5秒つづくと、基地局、または個別番号を選択したときの表示に戻ります。

※アナログモードでは、個別呼び出し機能が2桁仕様、または3桁仕様に設定されている場合、使用できます。

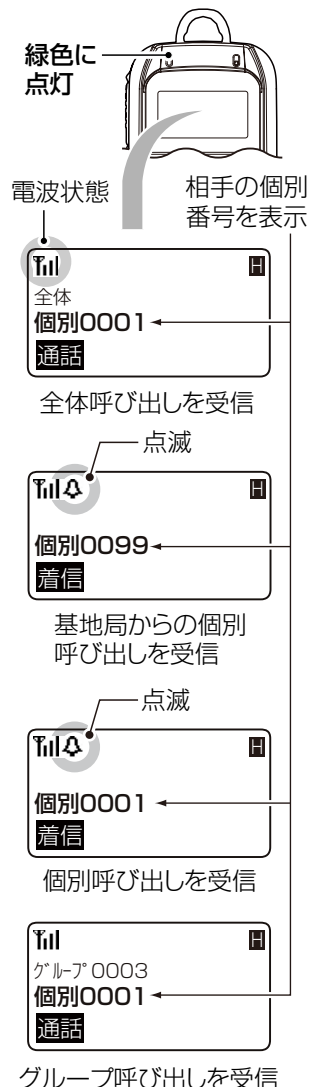


4 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。

電波を受信中は、**[送・受]**ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態を表示します。

待ち受け状態のときは、**[送・受]**ランプが消灯しています。



※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)の電波を受信しているときも、**[送・受]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

【応答するときは】

[送・受]ランプが消灯し、待ち受け状態になったら、**[PTT]**を押します。

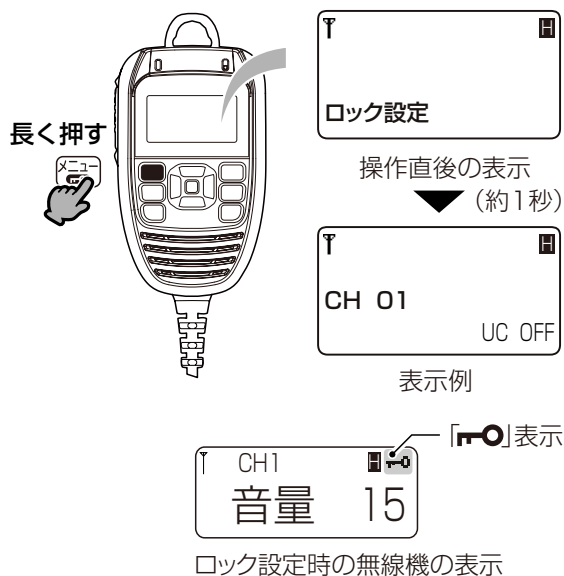
■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に、コマンドマイクのキー、無線機のキーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ビピッ」と鳴るまで、[メニュー/Ⓜ-O]を長く(約1秒)押します。

※同じ操作をすると、解除できます。



〈ロック中にできる操作〉

- ◎ロック機能の解除
- ◎送信/受信の切り替え
- ◎電源のON/OFF
- ◎モニター機能のON/OFF

※エマージェンシー機能(P.5-10)は、ロック中でも操作ができます。

※ロック中でも音量調整される場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき

◎ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くと

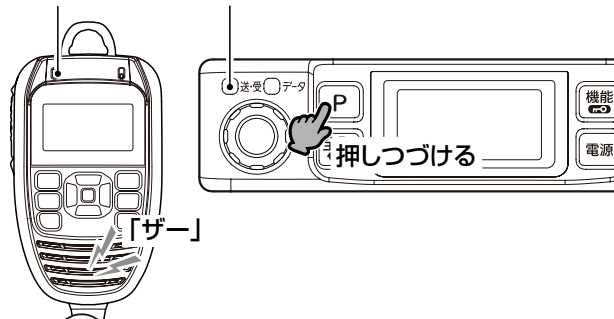
※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

[P] (プログラム) を押しているあいだ、動作します。

※ [P] (プログラム) の動作が、モニター機能以外の操作に割り当てされているときは、動作しません。

[P] (プログラム) スイッチを押しているあいだ緑色に点灯



■ ポケットビープ機能

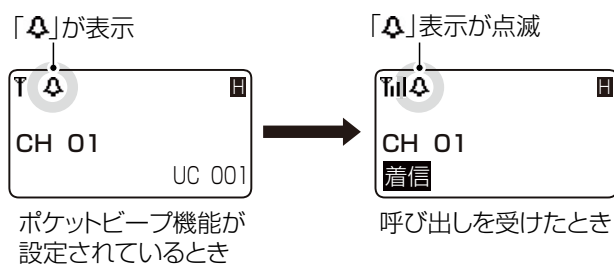
ユーザーコードや個別呼び出し機能が設定されている場合、使用できる機能です。

呼び出しを受けたとき、「📞」表示が点滅に変わります。

同時に、ビープ音、またはメロディーでお知らせします。

※ポケットビープ機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



◎ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けると「📞」表示が点滅に変わります。

◎呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、[電源]や無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

◎ポケットビープ機能が設定されていない状態で、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の個別番号と、「📞」表示の点滅だけになります。

5 そのほかの機能について

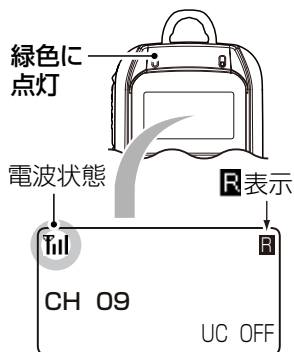
■ 受信専用機能

無線機の通話チャンネルを受信専用で使用できます。

※「**R**」表示された通話チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。

※受信専用機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



受信中の表示(例:CH09)

■ 呼び出しメロディー機能

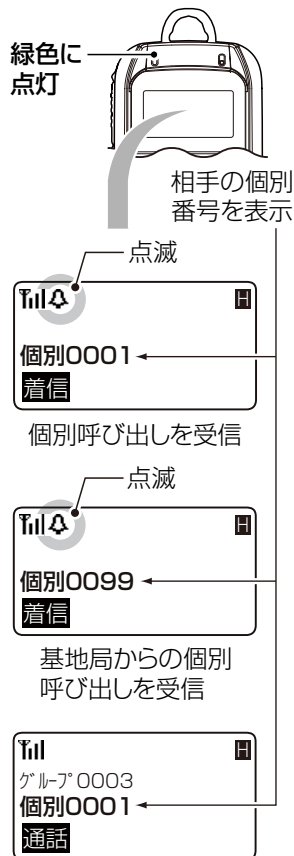
個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、Pベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

◎呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するときは、[電源]や無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

★呼出着信音機能とは、個別番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。

※呼び出しメロディー機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



グループ呼び出しを受信

■ 着信表示

ユーザーコードや個別呼び出しを受けたとき、[送・受]ランプが橙色に点滅します。

[戻る]を押すと、点滅が停止します。

※ご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ 秘話機能(デジタルモードのみ)

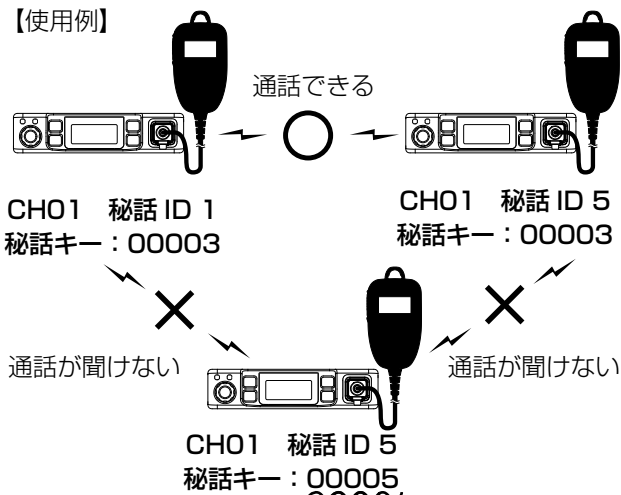
秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。

※秘話機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

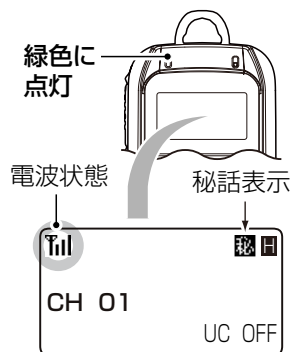
【使用例】



◎秘話機能が設定されているときは、右図の表示になります。

◎秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

◎自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した信号を受信すれば、音声聞こえます。



受信中の表示(例:CH01)

◎ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

◎通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キー使用して通話している)の電波を受信しているときも、[送・受]ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

◎他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

◎機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能 (デジタルモードのみ)

個別呼び出し機能で呼び出しをするとき、あらかじめ設定されたショートメッセージを送信できます。

※ショートメッセージを送信するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ショートメッセージの受信だけに使用する場合は、個別呼び出し機能(P.4-1、P.4-2)が設定されていれば、受信できます。

【ショートメッセージの送りかた】

下記の**1**～**4**の手順で操作します。

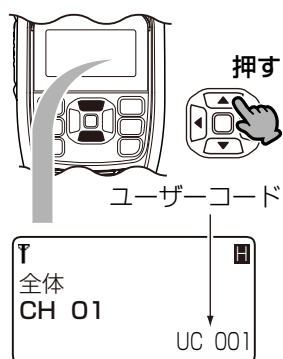
※受信したショートメッセージの確認方法は、**5**の手順(P.5-5)で説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

【▲】/【▼】を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全体呼び出し)

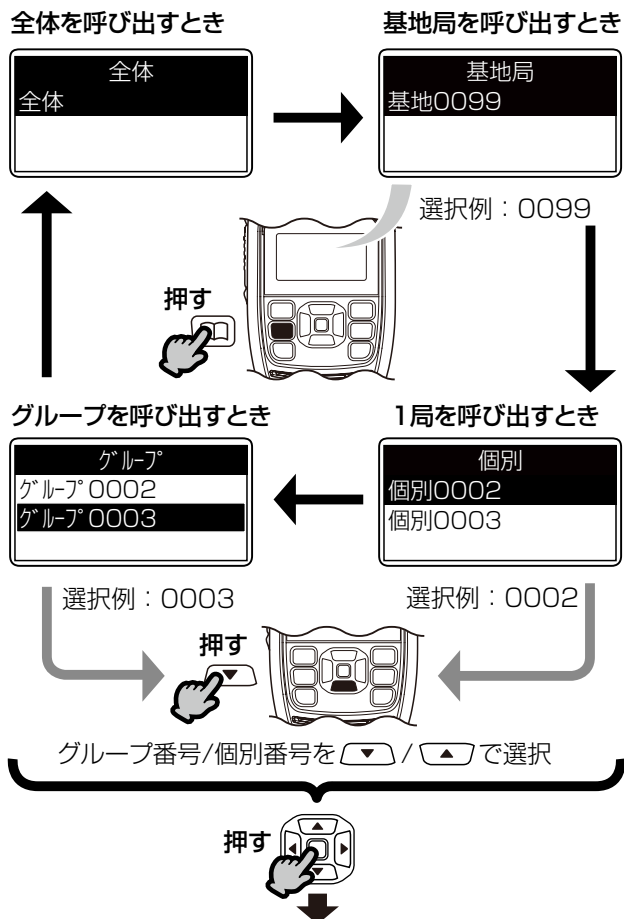
※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



②選択されていることを確認します。

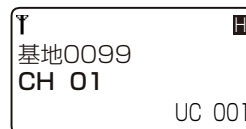
◎全体を選択した場合

「全体」表示 (例:CH 01)



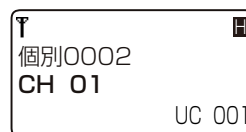
◎基地局を選択した場合

「基地局」表示
(例:基地0099)



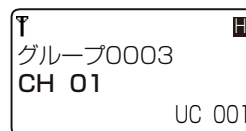
◎1局(個別)を選択した場合

「個別」表示
(例:個別0002)



◎グループ番号を選択した場合

「グループ番号」表示
(例:グループ0003)



5 そのほかの機能について

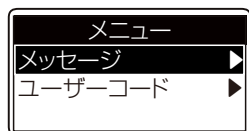
■ ショートメッセージ機能(デジタルモードのみ)

【ショートメッセージの送りかた】

3 メッセージの選択

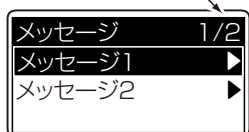
① **[メニュー/⇐O]**を短く押します。

- 「メニュー」画面が表示されます。

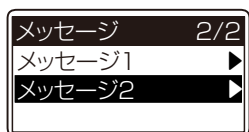


② **[決定]**を押します。

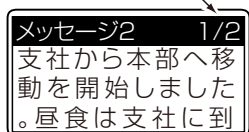
- 選択できるメッセージの数(例: メッセージ1、メッセージ2)を表示します。



例: メッセージ1が選択された状態



例: メッセージ2が選択された状態



例: 送信する内容
1/2ページ目

登録されたメッセージ(例: メッセージ2)の全文章を確認するときは、**[▲]/[▼]**を押します。

4 ショートメッセージを送る

ご注意

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードや個別番号が異なる誰かが通話中)があります。ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。

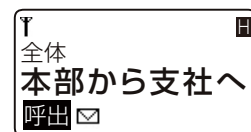
※ 呼び出しをするときは、**[送・受]**ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認

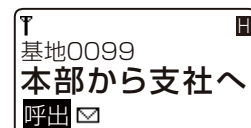


メッセージの内容が表示された状態で、**[PTT]**を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

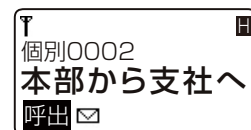
- **[PTT]**を押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。同時に、メッセージが通話相手に送信されます。



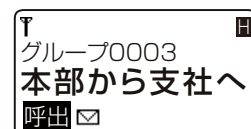
全体呼び出しで送信



基地局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信



グループ呼び出しで送信

【メッセージを送りなおすには】

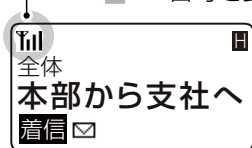
手順3の操作に戻って、メッセージを選択してから、呼び出しをしてください。

5 そのほかの機能について

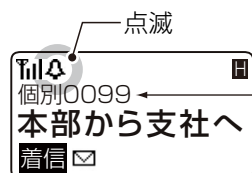
■ ショートメッセージ機能(デジタルモードのみ)

5 受信したショートメッセージの確認

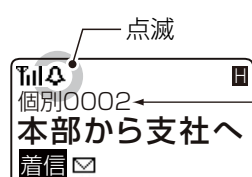
- ① ショートメッセージ付きの個別呼び出しを受信すると、メッセージの先頭部分を、右図のように表示します。



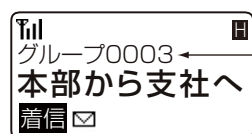
全体呼び出しを受信



基地局からの個別呼び出しを受信



個別呼び出しを受信



グループ呼び出しを受信

- ② [◀]/[▶]を押すと、メッセージの内容を確認できます。

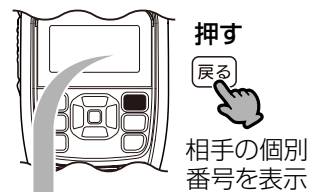


メッセージの確認
(例: 個別呼び出しを受信)

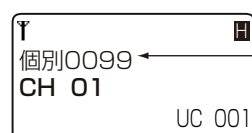
- ③ [戻る]を押します。

- 呼び出しを受けた相手の個別番号表示に戻ります。

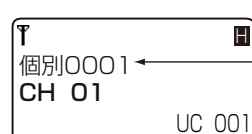
※ [戻る]を押すまで、応答できません。



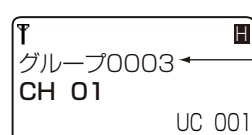
全体への応答



基地局への応答



個別への応答



グループへの応答



- ④ [PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に応答します。

- [PTT]を押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。

5 そのほかの機能について

■ 拡声器機能

[P] (プログラム) に拡声器機能が割り当てられているとき、本製品を拡声器として使用できます。

※ [P] (プログラム) の割り当ては、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ 拡声器機能をお使いになるときは、必ず別売品の外部スピーカー (SP-30、SP-35、SP-35L) を無線機に接続してください。

※ 拡声器機能がONの状態、自局宛ての呼び出しを受信したときは、拡声器機能が解除され、通常の通話ができます。

外部スピーカーの設定は、呼び出しを受信したとき、相手の音声が無線機に接続されたマイクロホンから聞けるように、設定モードの [スピーカー出力] 項目 (P.6-2) から、設定を「全てのSP」、または「SPマイクのみ」に変更してください。

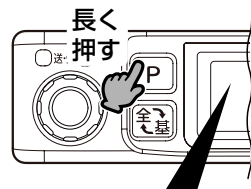
【操作のしかた】

本書では、[P] (プログラム) を長く押したとき、動作するように割り当てられているものとして説明します。

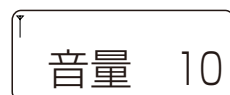
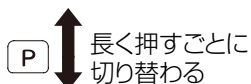
① [P] (プログラム) を長く押します。

● 「拡声器」とコマンドマイクに表示されます。

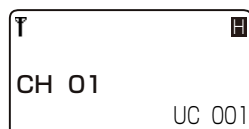
切り替えるときは、無線機本体を操作します。



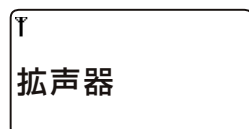
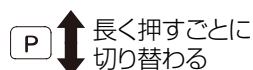
拡声器機能OFFのとき
(受信音量設定例: 15)



拡声器機能ONのとき
(拡声器音量設定例: 10)



拡声器機能OFFのとき



拡声器機能ONのとき

② [PTT] を押しながら、マイクロホン (付属品: HM-206) に向かって話します。

● 外部スピーカーから、音声が出力されます。

※ 音声は、送信されません。



③ 無線で呼び出したい場合は、[P] (プログラム) を長く押します。

● 拡声器が解除されます。

※ 拡声器の使用中は、呼び出しができません。

※ 拡声器機能OFFのときは、受信音量を調整できます。

拡声器機能ONのときは、拡声器音量を調整できます。

調整のしかたは、本製品の簡易取扱説明書をご覧ください。

5 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号、ショートメッセージや相手の位置情報が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

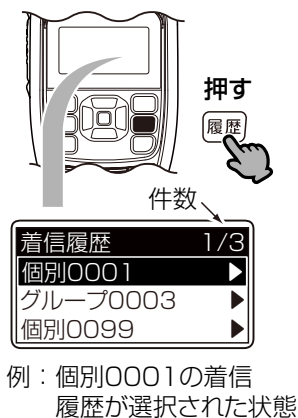
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

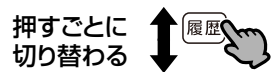
- ① **【履歴】** を繰り返し短く押して、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。

※設定によっては、「着信履歴」→「発信履歴」→「録音履歴」の順に切り替わります。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



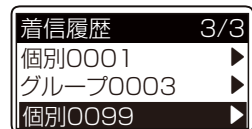
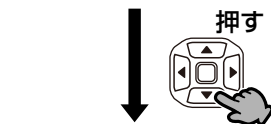
例：個別0001の着信履歴が選択された状態



例：個別0003の発信履歴が選択された状態

- ② 発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、**【▲】/【▼】** を押して選択します。

※上から順に最新の履歴として記憶されています。



例：個別0099の着信履歴が選択された状態

- ③ 呼び出す相手の履歴を選択した状態で、**【PTT】** を押しながら、相手に呼びかけます。

● **【送・受】** ランプが赤色に点灯します。



例：個別呼び出し

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

◎ 発信履歴、着信履歴を各10件まで記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

◎ 全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

◎ 発着信履歴の消去は、設定モードからできます。

(P.6-2)

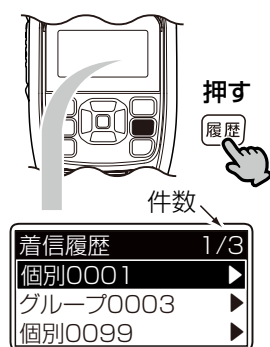
【発着信履歴からショートメッセージを確認するには】

- ① **【履歴】** を繰り返し短く押して、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。

※設定によっては、「着信履歴」→「発信履歴」→「録音履歴」の順に切り替わります。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

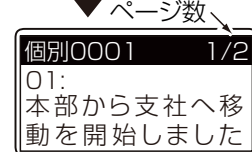
※発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、**【▲】/【▼】** を押して選択します。



例：個別0001の着信履歴が選択された状態



例：個別0003の発信履歴が選択された状態



例：個別0001(着信履歴)のショートメッセージ

- ② **【決定】** を押します。

● ショートメッセージが表示されます。

※ **【PTT】** を押すと呼び出せません。

※履歴に登録されたショートメッセージは、送れません。

【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

設定モードの[発着履歴消去]項目(P.6-2)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、お買い上げの販売店にユーザーリセットをご依頼ください。

5 そのほかの機能について

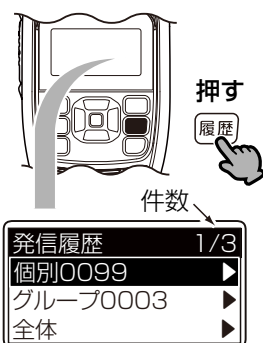
■ 発着信履歴機能

【発信履歴からGPS情報の送信時間を確認するには】

- ① **【履歴】**を繰り返し短く押して、「発信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※発信履歴が2件以上ある場合は、**【▲】**/**【▼】**を押して選択します。



発信履歴表示を選択
(例:個別0099)

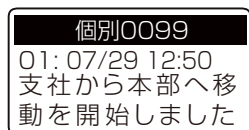


ショートメッセージなし



位置情報を送信した時刻の発信履歴表示例

ショートメッセージあり



位置情報とショートメッセージを送信した時刻の発信履歴表示例

- ② **【決定】**を押します。

●GPS情報を送信した時刻が表示されます。

※GPS衛星からの信号を測位できない状態で送信したときは、時刻は履歴として表示できません。

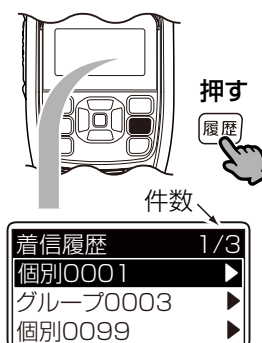
※ショートメッセージと併せて送信したときの履歴では、その内容も確認できます。

【着信履歴からGPS情報を確認するには】

- ① **【履歴】**を繰り返し短く押して、「着信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

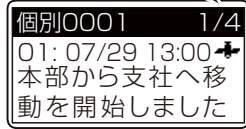
※着信履歴が2件以上ある場合は、**【▲】**/**【▼】**を押して選択します。



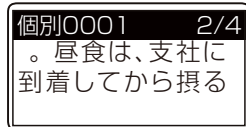
着信履歴表示を選択
(例:個別0001)



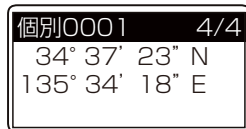
ページ数



位置情報とショートメッセージを受信した時刻の受信履歴表示例



相手との距離と方位の表示例



相手の緯度と経度の表示例

- ② **【決定】**を押します。

●GPS情報を受信した時刻が表示されます。

※ショートメッセージと併せて受信したときの履歴では、その内容も表示されます。

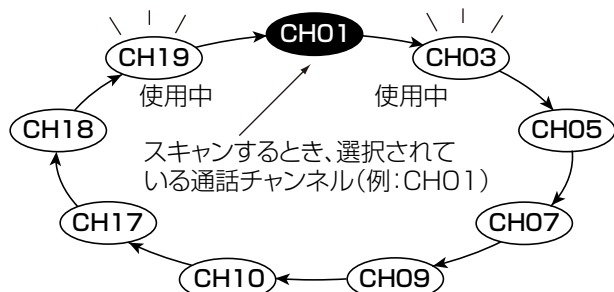
- ③ GPS情報が表示されるまで、**【▼】**を繰り返し押します。

5 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

(デジタルモードのみ)

通話チャンネルを自動で切り替えて、使用中の通話チャンネルを探し出す機能です。



※スキャン対象外の通話チャンネル(例:CH01)が選択されている状態でスキャンを開始させたときは、その通話チャンネルも含めてスキャンします。

※【P】(プログラム)にメモリーチャンネルスキャン機能が割り当てられているとき、使用できます。

【P】(プログラム)の割り当てと、スキャンの対象にするチャンネル設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

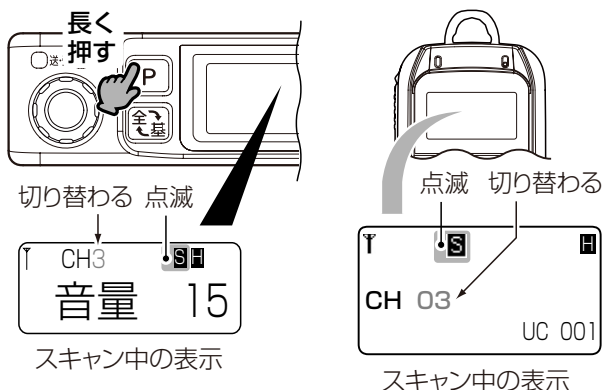
※本書では、【P】(プログラム)を長く押したとき、動作するように割り当てされているものとして説明します。

【操作のしかた】

【P】(プログラム)を長く押します。

●スキャンを開始します。

スキャンするときは、無線機本体を操作します。



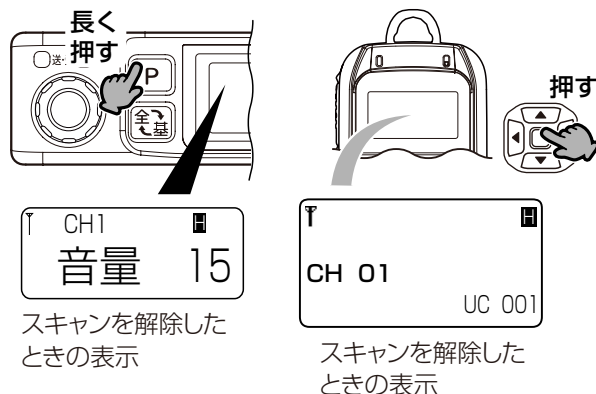
【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

【P】(プログラム)を長く、またはコマンドマイクの【決定】を押します。

●スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルを表示します。

※電源を入れなおしても、スキャンは解除されません。

解除するときは、下記のどちらかで操作します。



【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

◎スキャンの対象に設定された通話チャンネルが1件だけで、その通話チャンネルと同じ番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中に緊急呼び出しなど、送信をすると、スキャン動作を解除して、スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルで呼び出しをします。

◎スキャン中は、個別呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

◎受信状態が10秒つづいたら、スキャンを再開します。
10秒経過するまでに信号がなくなり、その状態が5秒つづいたら、スキャンを再開します。
スキャン停止時間と再開時間の設定変更については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 そのほかの機能について

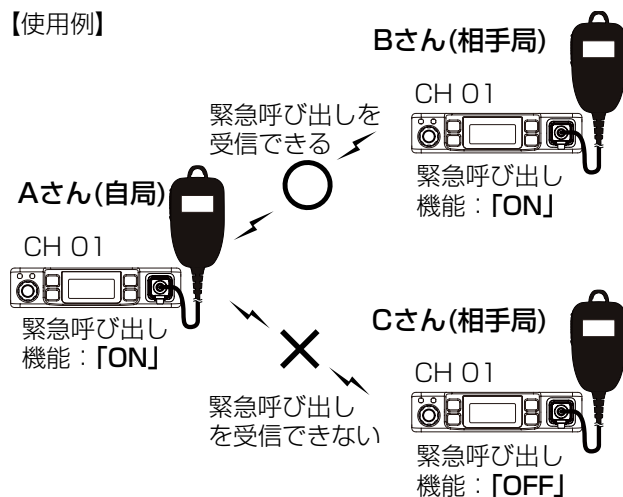
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※緊急呼び出し機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

適切な音量になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。

送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。

※緊急呼び出しをする無線機には、付属のコマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(別売品: HM-204)を無線機に接続する必要があります。

※個別呼び出し機能(P.4-1、P.4-2)が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。

緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎警告音を鳴らさない設定がされている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
- ◎メモリーチャンネルスキャン機能が動作中の場合

5 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

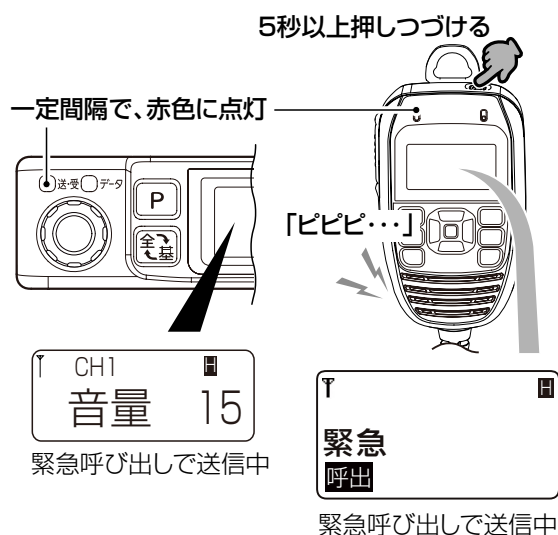
【緊急呼び出しのしかた】

付属のコマンドマイク(HM-206)の【緊急呼び出し】を長く(5秒以上)押すと、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しをします。

※緊急呼び出しに使用する通話チャンネルが、あらかじめ指定されていない場合は、緊急呼び出しの前に、緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択してください。

①「緊急」と表示されるまで、付属のコマンドマイクの【緊急呼び出し】を長く(5秒以上)押します。

- 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに【送・受】ランプが赤色に点灯します。



②その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

- 応答があると、「呼出」表示が「通話」表示に変わり、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

個別呼び出し機能使用時は、応答した相手の個別番号も併せて表示されます。

※応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

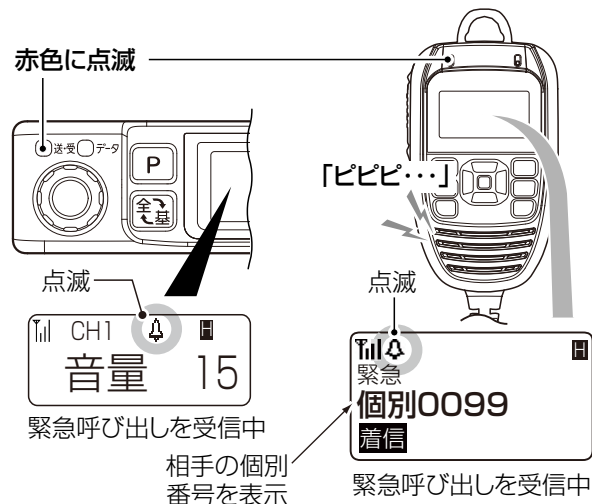
③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

①警告音が「ピピピ…」と鳴って、【送・受】ランプが赤色に点滅します。

また、「緊急」と「相手局番号」を表示します。



②【PTT】を押して、応答します。

- 応答すると、「着信」表示が「通話」表示に変わり、警告音が停止します。

※応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

5 そのほかの機能について

■ 録音/再生機能

送信したときの通話、および自局宛ての通話を自動録音、および再生できます。

※録音された最新の内容(最大5分間の録音)は、録音履歴を消去するまで、保持されます。

5分を超えた内容は、その時点で1番古い録音内容を消去しながら録音されます。

※録音/再生機能の使用、および設定モードから録音履歴を消去できるようにするには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

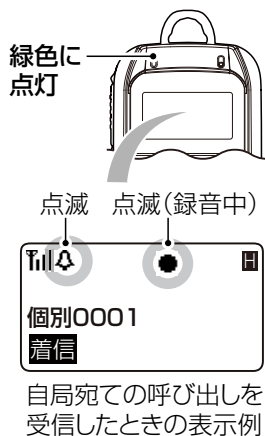
※録音/再生の操作には、付属のコマンドマイク(HM-206)を無線機に接続する必要があります。

1 呼び出しを受ける(録音開始)

自局宛ての通話を受信すると、自動で録音を開始します。

- [送・受]ランプが緑色に点灯すると同時に、「●」が点滅します。

※自局から呼び出しをした場合でも、呼び出しを受けたときと同様に、「●」が点滅して、自動で録音を開始します。



2 応答する(録音継続)

- ①[送・受]ランプが消灯し、待ち受け状態を確認します。

- 「●」は、点滅をつづけます。

- ②[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に応答します。

- [送・受]ランプが赤色に点灯します。「●」は、点滅をつづけます。



3 終話する(録音終了)

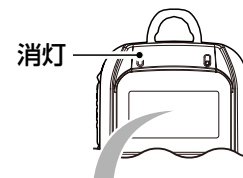
通話が終わったら、[PTT]をはなします。

- [送・受]ランプが消灯します。

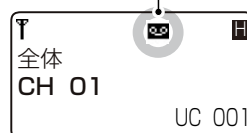
その後、何も操作しない状態が5秒つづくと、「●」が消灯し、「☎」が表示されます。

表示は、終話後表示設定★で指定されている表示(例:全体)に戻ります。

★終話後表示設定の変更は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



表示(録音データ有り)



終話したときの表示例

【録音/再生機能の動作について】

- ◎送信したときの通話、および自局宛ての通話を受信すると自動で録音を開始します。

※個別呼び出し機能を使用時、他局間の通話や呼び出しの音声は出力されますが、録音されません。

- ◎ユーザーコードや個別番号が一致しない場合など、音声が出力されない通信は、録音されません。

そのとき、再生中の場合は、再生をつづけます。

- ◎終話するまでの通話を1件として録音します。

録音を一時停止をすると、送信中や受信中に再開しても、別の1件として録音されます。

- ◎録音時間の合計が5分を超えた場合には、その時点で1番古い録音内容を消去しながら録音されます。

録音件数は、録音時間の合計が5分以内であれば、最大30件です。

- ◎再生中に自局宛の呼び出しを受信した場合は、再生が停止されると同時に受信音声出力され、録音を開始します。

- ◎緊急呼び出しを送信、または受信したとき、警告音が「ピピピ…」と鳴っているあいだは、「●」が点滅していますが、録音はされません。

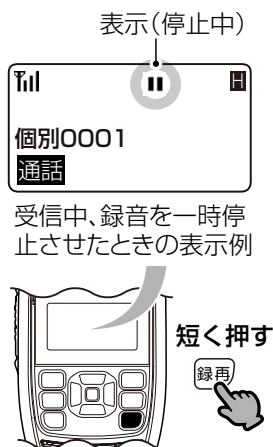
応答されたら、録音を開始します。

5 そのほかの機能について

■ 録音/再生機能

【録音を一時停止するには】

待ち受け時、送信、または受信中に、**【録再】**を短く押すごとに、録音一時停止と再開が切り替わります。



【直前に録音された内容を再生するには】

- ① 通話チャンネル番号表で、**【録再】**を長く押します。
● 再生が開始されます。

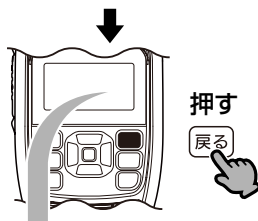


直前の通話内容を再生しているときの表示例

↓ 再生完了



再生完了後の表示例

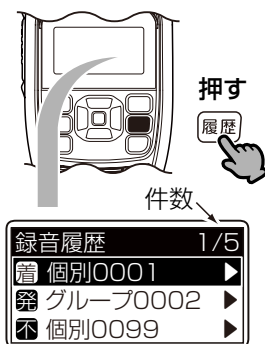


再生する前の表示例

【録音履歴から再生するには】

- ① **【履歴】**を繰り返し短く押して、「録音履歴」を選択します。

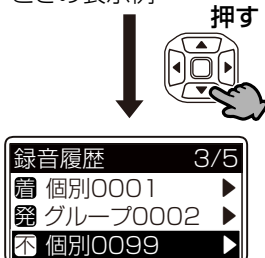
※設定によっては、「着信履歴」→「発信履歴」→「録音履歴」の順に切り替わります。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



録音履歴を選択したときの表示例

- ② 録音履歴が2件以上の場合は、**【▲】/【▼】**を押して選択します。

※上から順に最新の履歴として記憶されています。



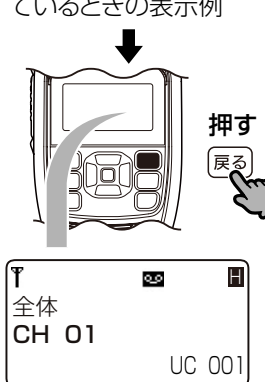
不在着信の録音履歴を選択したときの表示例

- ③ **【決定】**を押します。
● 再生が開始されます。



不在時の通話内容を再生しているときの表示例

- ④ 再生する前の表示に戻すときは、**【戻る】**を押します。



再生する前の表示例

「罫」、「罫」、「罫」の説明

「罫」：自局宛ての着信に应答して、終話するまでの通話

「罫」：自局から呼び出しをして、終話するまでの通話

「罫」：自局宛ての着信に应答できず、終話したときの通話

5 そのほかの機能について

■ GPS機能

自局の位置情報(緯度/経度)を表示したり、相手局に自局の位置情報を送信したりできる機能です。

相手局の位置情報を受信したときは、相手局の方向と距離を表示できます。

※GPS機能をご使用になるには、送信側と受信側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※自局位置情報の表示や送信には、付属のコマンドマイク(HM-206)を無線機に接続する必要があります。

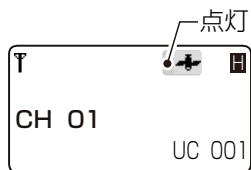
※「」が点滅から点灯に変わると、受信(測位)完了です。点滅している状態では、位置情報の表示や送信、発着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

【自局の位置情報を確認するには】

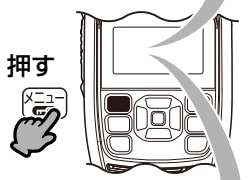
①「」が点灯(測位が完了)していることを確認します。



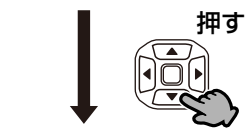
測位完了時の表示

②「メニュー/」を短く押します。

●「メニュー」画面が表示されます。



③「」/「」を押して、GPS情報を選択します。



GPS情報を選択

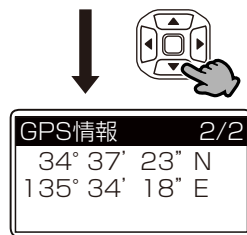
④「**決定**」を押します。

●測位日時と追尾衛星数(表示例 SAT:05)を表示します。



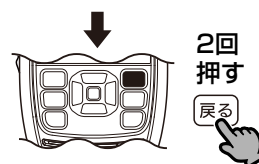
測位日時と追尾衛星数(SAT)の表示例

⑤「」を押すと、緯度と経度を表示します。



緯度と経度の表示例

⑥待ち受け時の表示に戻すときは、「戻る」を2回押します。

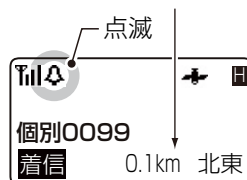


【相手局から位置情報を受信したときの表示】

GPS機能が設定されているとき、相手局の位置情報を受信すると、相手局の距離と方位を表示します。

※発着信履歴機能が設定されているときは、発着信履歴から、相手局の位置情報を確認できます。(P.5-8)

例:相手局が自局より北東へ0.1km先にいることを表示



基地局から位置情報付きで、個別呼び出しを受けたときの表示例

5 そのほかの機能について

■ GPS機能

【自局の位置情報を送信するには】

✚が点灯している状態で、**【PTT】**を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- **【PTT】**を押しているあいだは、**【送・受】**ランプが赤色に点灯します。同時に、自局情報が通話相手に送信されます。



【送信時のご注意】

【PTT】を押すと、位置情報を送出後に音声を送信されます。
通話相手に呼びかけるときは、「ブブッ」と送信モニターが鳴ってから、呼びかけてください。

■ ノイズキャンセル機能

周囲の雑音を抑えて、雑音の少ない音声で送信する機能です。

※ ノイズキャンセル機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ ノイズキャンセル機能の使用には、付属のコマンドマイク(HM-206)を無線機に接続する必要があります。

※ 右図のマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクロホンから入った周囲のノイズを打ち消すことで、送信音声に含まれるノイズ(特に高音域)を軽減します。

ノイズキャンセル機能用マイク



HM-206(後面)

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

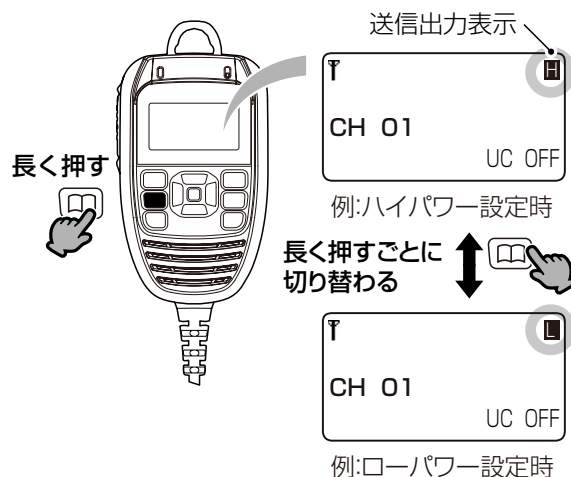
※ 送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**【個別番号帳】**を長く(約1秒)押します。

※ 長く(約1秒)押すことに、ハイパワー(5W:「H」)とローパワー(1W:「L」)が切り替わります。



本製品の設定モードから、設定できる機能を変更する方法について説明します。

設定できる項目は、お買い上げいただいたときの設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定一覧

付属のコマンドマイク(HM-206)に表示される設定項目について説明しています。

設定項目	初期値	参照
Pベル ^{★1}	OFF	P.6-2
マイクゲイン	0	P.6-2
スケルチレベル ^{★2}	1	P.6-2
発着履歴消去 ^{★1}	しない	P.6-2
スピーカー出力	自動	P.6-2
バックライト	常時点灯	P.6-3
マイク表示輝度	4	P.6-3
本体表示輝度	4	P.6-3

★1 個別呼び出し機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

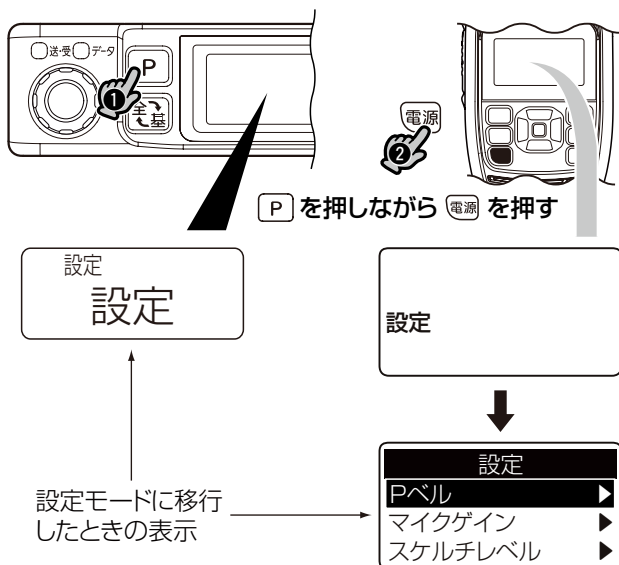
★2 例として記載しています。

スケルチレベルの初期値は、検出電圧のわずかな違いが表示に反映されるため、同じ機種の場合でも個体差により初期値が異なります。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② **[P]** (プログラム) を押しながら、**[電源]** を押しつづけます。

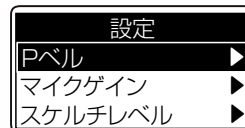


- ③ 「設定」と表示され、「ビピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。
 - ※ 設定モードを解除するまで通話できません。
- ④ 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。

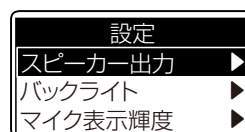
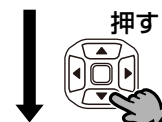
■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

- ① **[▲]/[▼]** を繰り返し短く押して、設定項目(例: スピーカー出力)を選択します。



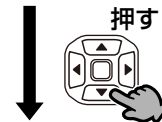
設定モードの表示例



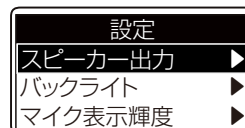
例: スピーカー出力を選択したとき



現在の設定値



変更する設定値を選択 (選択例: 全てのSP)



設定値確定後の表示



- ② **[決定]** を押します。
 - 現在の設定値(例: 自動)が表示されます。

- ③ **[▲]/[▼]** を繰り返し短く押して、設定値を選択します。(例: 全てのSP)

- ④ **[決定]** を押します。
 - 設定値が確定されます。
 - ※ ほかの機能も変更するときは、①～④の操作を繰り返します。

- ⑤ 設定モードを解除するときは、**[PTT]** を押します。
 - ※ 設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

6 各種機能の設定

■ 設定項目について

Pベル (初期設定値:OFF)

Pベル
☒ OFF
ブザー ON
メロディ ON

Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※この項目は個別呼び出し機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- ブザー ON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- メロディ ON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- ブザー OFF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【ブザーON、メロディON、ブザーOFFに設定した場合】

◎表示部には、「P」が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「ブザーOFF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

マイクゲイン (初期設定値:OdB)

マイクゲイン
-6dB
-3dB
☒ OdB

マイクロホンの感度を設定します。

- 選択範囲: -15dB(低)~OdB(中)~9dB(高)

※3dB刻みで選択できます。

※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きな声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さな声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

スケルチレベル

スケルチレベル
0
☒ 1
2

スケルチレベルを設定します。

- 選択範囲: 0(浅い) ~4(深い)

※受信する相手局の信号が弱いときは設定値を小さくし、信号が強いときは設定値を大きくします。

ご参考

スケルチレベルは、検出電圧のわずかな違いが表示に反映されるため、同じ機種の場合でも個体差により出荷時の値が異なります。

発着履歴消去 (初期設定値:しない)

発着履歴消去
☐ しない
☐ 消去する

記憶された発信履歴、および着信履歴を消去します。

※「消去する」を選択して、[決定]を押した時点で、履歴が消去されます。

- しない : 履歴を消去しない
- 消去する : 履歴を消去する

スピーカー出力 (初期設定値:自動)

スピーカー出力
☒ 自動
全てのSP
SPマイクのみ

外部スピーカーを接続したとき、マイクロホン(HM-206、HM-204)から受信音出力するかしないかを設定します。

- 自動 : 外部スピーカーだけに音を出す
- 全てのSP : 外部スピーカーとマイクロホンの両方に音を出す
- SPマイクのみ : マイクロホンだけに音を出す

ご注意

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。
※別売品(7章)の外部スピーカーをご使用ください。

6 各種機能の設定

■ 設定項目について

バックライト (初期設定値: 常時点灯)

バックライト
常時消灯
操作時点灯
☒ 常時点灯

送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- 常時消灯 : 点灯しない
- 操作時点灯 : 送信以外の操作すると、照明が約5秒点灯する
- 常時点灯 : 電源を切るまで消灯しない

マイク表示輝度 (初期設定値: 4)

マイク表示輝度
☒ 4
5
6

付属のコマンドマイク(HM-206)について、表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～7

本体表示輝度 (初期設定値: 4)

本体表示輝度
☒ 4
5
6

無線機本体の表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～7

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ
<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

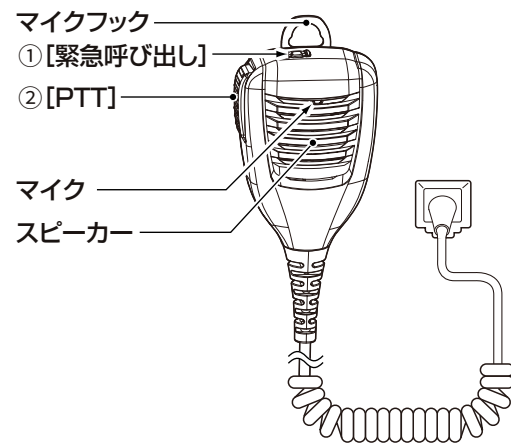
★ IP54の防塵/防水性能になります。

外 部 ス ピ ー カ ー	
SP-30	:外部スピーカー(20W/4Ω) ※ケーブル長:約2.8m
SP-35	:外部スピーカー(5W/4Ω) ※ケーブル長:約2m
SP-35L	:外部スピーカー(5W/4Ω) ※ケーブル長:約6m
外 部 電 源	
PS-230A	:卓上電源装置 (スピーカー内蔵:7W/8Ω)
マイクロホン関係	
AM-5	:アーム型マイクロホン(磁石付き基台)
SM-28	:デスクトップマイクロホン
HM-204★	:防水スピーカーマイク ※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-204の防塵/防水性能を維持できません。
HM-206 #32★	:コマンドマイク ※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-206の防塵/防水性能を維持できません。
OPC-647	:マイクロホン延長ケーブル(約2.5m) ※AM-5、SM-28、HM-204、HM-206のいずれかでお使いになれます。

■ HM-204(防水スピーカーマイク)

緊急呼び出し機能に対応した防水スピーカーマイクです。

本製品に接続することで、IP54の防塵/防水性能になります。



①[緊急呼び出し]

緊急呼び出し機能(P.5-11)が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。

②[PTT]

[PTT]を押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

7 別売品とその使いかた

■ AM-5(アーム型マイクロホン)

エレクトレット形コンデンサーマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35、SP-35L)と併せてご用意ください。

底面部に強力な磁石を使用しています。

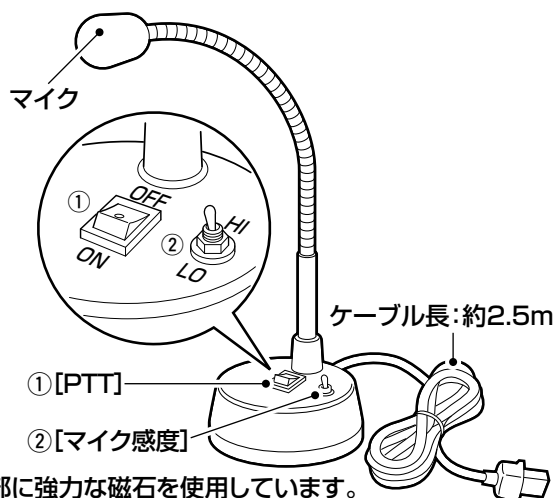
△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面部を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。



① [PTT]

「ON」にすると送信状態、「OFF」にすると待ち受け状態になります。

② [マイク感度]

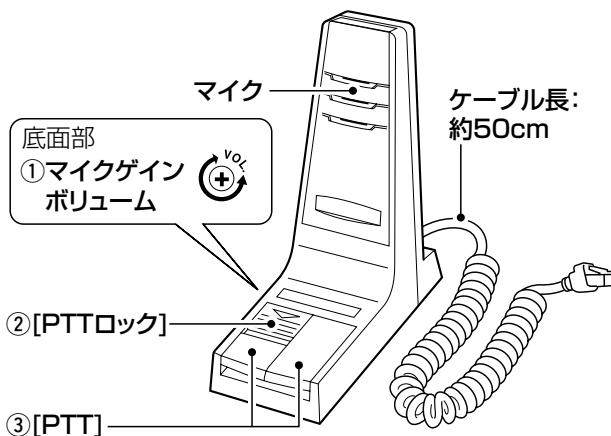
「HI」にすると感度が高くなり、「LO」にすると低くなります。

※マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35、SP-35L)と併せてご用意ください。



①マイクゲインボリューム

マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック]

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (③) がロックされ、ハンズフリーで送信できます。

ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT]

押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

■ 日常の保守と点検について

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、無線機本体のツマミ、またはコマンドマイクの【◀】/【▶】を押して、表示される音量レベルを確認してください。

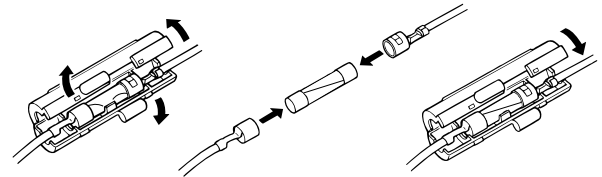
■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズが使用されています。

◎無線機に使用するヒューズ : 125V/5A

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。

※下図のヒューズカバーには、「5A」のシールが貼られています。



■ 従来製品との相互使用について

(2023年11月現在)

従来製品と相互に使用するときは、下記の弊社製無線機をお使いください。

◎IC-DV5505C

◎IC-DV75

8 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.8-3)までお問い合わせください。

現 象	原 因	処 置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.8-1
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体、またはマイクロホンの音量レベルを確認する	P.8-1
	外部スピーカーの設定が正しくない	設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する	P.6-2
	マイクロホン(HM-204、HM-206)、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	コマンドマイク、または外部スピーカーが正常に接続されてるか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じモードの通話チャンネルに合わせる	P.2-1
	ユーザーコードが合っていない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-1
	相手が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	お買い上げ時、秘話IDと秘話キーが設定されている場合、秘話IDと秘話キーが異なる相手とは通話できません	P.5-2
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	相手の個別番号、またはグループ番号を確認する	P.4-3
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.2-2
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
「キーロック中」、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.5-1
モニター機能が使用できない	[P](プログラム)の動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられている	お買い上げの販売店に、[P](プログラム)の動作変更をご依頼ください	—
本書で説明されている機能が使用できない	お買い上げ時、あらかじめ設定されていない機能である	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	—

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P.8-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

**お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)**

**◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)**

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:https://www.icom.co.jp/

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

